

令和6年度 第1回美里町総合教育会議議事録

招集期日	令和6年12月26日（木）
招集場所	美里町役場 201会議室
開会閉会	開会 午前9時30分 閉会 午前10時30分
出席者	構成員：原田町長、南教育長、横関委員、岡本委員、櫻井委員、深町委員
欠席委員	
説明のために出席した者	【庶務関係】総合政策課：萩原課長、中兼係長 教育委員会事務局：熊谷指導主事、新井係長
議題 (次第)	1 開会 2 挨拶 3 議題 学校現場の新たな取組みについて 4 その他 5 閉会
配布資料	① 次第 ② 学校現場の新たな取組みについて ③ 参考資料 美里町総合教育会議運営要綱
傍聴人	0人
その他 特記事項	なし
会 議 の 経 過	
発言者	発言内容・決定事項
事務局 (総合政策課長)	おはようございます。 本日はご多用の中ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。本日、司会を務めさせていただきます、総合政策課長の萩原と申します。よろしくお願いいたします。 それではこれより、令和6年度第1回美里町総合教育会議を開催いたします。 まず、資料の確認をお願いいたします。お手元に【次第】、【学校現場の新たな取組みについて】及び参考資料と記載された【美里町総合教育会議運営要綱】を配布いたしました。不足などはありませんでしょうか。 それでは、次第に沿いまして会議を進めさせていただきます。 開会にあたりまして、町長の原田から挨拶をいたします。

町長	改めまして、おはようございます。 教育委員の皆様には日頃より教育行政の推進にご尽力を賜りまして、この場をお借りし厚く御礼を申し上げます。 美里町が姉妹都市提携を結んでいる戸田市の教育委員会は、教育における先進地として文部科学省から注目されています。以前、町内の各学校の先生たちと私とで戸田市を訪問し、いろいろ意見交換をさせていただきました。そこで、戸田市の新しい取り組みの話を伺い、我々にも取り入れられるものがあるだろうということで、いろいろな仕組みを導入してきました。 今回の教育総合教育会議におかれましては、その状況をお聞きいただきながら、さらにご意見いただければありがたいと思っております。 どうぞよろしくお願いいたします。
事務局 (総合政策課長)	それでは、総合教育会議を始めさせていただきます。 美里町総合教育会議運営要綱第5条により「会議は、町長がその議長となる。」と規定されておりますので、議事進行を原田町長にお願いします。
議長 (原田町長)	それではしばらくの間進行させていただきます。 着座にて失礼させていただきます。 議事録署名人の選任ですが、美里町総合教育会議運営要綱第9条第2項により、私が2名を指名することになっております。それでは指名させていただきます。署名する方は、南教育長と横関教育長職務代理者をお願いしたいと思います。 議題に入らせていただきます。議題「学校現場の新たな取り組みについて」を事務局より説明願います。
事務局 (教育委員会事務局 熊谷指導主事)	資料「学校現場の新たな取り組みについて」を基に説明
議長 (原田町長)	皆様から何かご意見ご質問等がございましたらお願いいたします。それでは、順次お願いいたします。 横関委員さんお願いいたします。
横関委員	各家庭間の教育格差が昨今世間を賑わしておりますが、タブレットを活用したA Iドリルなど美里町の教育における新たな取り組みについて、各家庭間の経済力の格差は特に問題にはなりませんか。

事務局 (教育委員会事務局 熊谷指導主事)	本日お話をさせていただいたものは基本的には学校の中での取り組みとなっており、家庭での格差は問題にはならないと考えております。
議長 (原田町長)	ありがとうございました。 それでは岡本委員さんお願いいたします。
岡本委員	ご説明いただいて、学び方自体が今後、ものすごいスピードで進化すると思いました。ただ、タブレットやA Iを活用する中で、かつての読み書きやそろばんなど、実際に自分の体を動かして思考するという能力が欠落していくのではないかと感じました。思考能力が劣化しない対応も併せて検討していく必要があると考えております。
事務局 (教育委員会事務局 熊谷指導主事)	実際に手を動かすということも大切だと教育現場の教職員も感じております。I C T機器の増加やA Iドリルなどのソフトが入ってくる中でもバランスをとりながら児童生徒に最適な教育ができるように今後も各学校と連携していきたいと考えております。
議長 (原田町長)	児童・生徒が使っているタブレットは、画面上で書くことができますよね。
事務局 (教育委員会事務局 熊谷指導主事)	画面上で解答を書く問題形式がありますので、日々のタブレット活用の中でも書くという動作ができるようになっております。
教育長	昨年、教育委員の皆様にも実際に見ていただいたA Iドリルは簡単なレベルのA Iドリルであり、書く動作より選択式のものが多くありました。今年、導入しておりますA Iドリルは、解答を画面上に記述する形式の問題もあり思考能力の欠落などの心配はないと考えております。 また、各学校で漢字ドリルや計算ドリルを中心に朝学習の時間、書く活動、計算する活動を行っておりますので、その点からも心配はないと考えております。
岡本委員	我々大人も何かを調べるときにすぐに携帯を使ってしまい、昨今辞書を使うということはほとんどなくなってしまいました。 今後、書籍で調べるということが益々少なくなるのではないかと思います。少し寂しいと感じております。 現状では学校で辞書の使い方をしっかり学ばせているということですので、これからも辞書などの書籍を使って物事を調べて学ぶということをしていただければと思います。

議長 (原田町長)	ありがとうございました。 続いて、櫻井委員さんお願いいたします。
櫻井委員	紙に文字を書く機会が少なくなっていくのは私も寂しいなと思いつつ、文字というものは時代とともに変化していき、いずれは記号化したり、今はその途中のような気もしております。 また、タブレットを活用した教育現場の取組みについては、先ほどの事務局からの説明でイメージができました。 今後、機会があればさらに詳しく実例等を踏まえて説明していただきたいと思います。 また、タブレットでの学習について、学校では一律に朝学習などで活用されていると思うのですが、本当に好きな子はどんどん進んで学習していき、やる子とやらない子との差がつくのかなと思います。そういった点は、保護者と連携して改善していけたらいいかと思います。 最後に、経済的な格差の観点から、塾に行く子と行かない子についても、このタブレットを活用した学習の取組みにより公平になるように感じております。
事務局 (教育委員会事務局 熊谷指導主事)	今のお話の中にあつたように、朝学習で十分に使われており、中学校では放課後の活用も図られているので、今後、小学校段階から放課後の活用が進められるように学校と連携しながら進めていけたらと思います。
議長 (原田町長)	ありがとうございました。 続いて、深町委員さんお願いいたします。
深町委員	タブレットは児童・生徒の皆さんに全員提供されているので、その点では平等で非常に良いと思います。 手書きで入力したのもも判断してもらえますし、その点では本当に進歩していると思います。 しかも、やればやるほど学力に合うような問題を出してくれるということで、非常に為になっているので、是非これはどんどん活用していただきたいと思います。 「学校現場の新たな取組みについて」のスライド6の小学校と中学校の回答数の表に午後10時以降記載がありません。小学校が使用できるのは午後9時までだと思うのですが、中学生も午後9時まででしょうか。夜にもう少し勉強する生徒さん多いと思いますので、何かしら対応できればいいのではないかと思います。

事務局 (教育委員会事務局 熊谷指導主事)	現状では健康上の問題等を踏まえると、心配なところがありますので、学校から帰った後に活用できる時間を設定している状況です。 今いただいたご意見と中学校からの声も踏まえ、どれくらいの時間を家に帰った後も活用できるように設定するかというところを今後検討していきたいと考えております。
議長 (原田町長)	私から質問ですが、ＱＵテストとアイグロウは何か関連性があるのでしょうか？
教育長	ＱＵテストは本当に詳しいデータが出ます。アイグロウのデータでも一部活用できると思いますが、子供たちの学校生活の適用を診断する場合は、やはりＱＵテストの方がよく分かります。 ＱＵテストを無くして、アイグロウだけの活用でも可能かもしれませんが、確かな実態把握のためには、ＱＵテストがより適しておりますので、引き続き、実施していきたいと考えています。
議長 (原田町長)	ありがとうございました。 せっかくですので、今回提示した議題以外で何かありましたら、委員の皆様から順次発言いただければ、この後意見交換という形でお願ひできればと思います。 よろしくお願いします。
横関委員	ＩＣＴやＡＩの導入により、負担が大きくなっているのか。また、負担軽減につながっているのか。
事務局 (教育委員会事務局 熊谷指導主事)	今、働き方改革と言われている中で、今まで例年にならって行ってきたものを精査しながら進めており、負担が増えたというようなことは学校現場では感じていないと思います。 また、新しいシステムやソフトが入ることで、業務の削減にも繋がっています。例えばＡＩドリルでは、マル付けの業務が削減され、ドリルでの学習活動をＡＩに任せるということもできるようになっています。 また、ＩＣＴ支援員を活用することで、新たなシステムが入った際にすぐに対応してもらえるため、大きな負担なく進められていると感じております。
岡本委員	ＡＩドリルのキュービナを見させていただいて、全国で活用されて進化していくものだと感じました。また、これを使わないと学力格差がはっきりと出てくるだろうと思います。 一方で、先日美里中学校の教頭先生と話をしたのですが、英語能力をつけるには英語が日本語と同じような状況の中で耳に入ってく

	るような環境が一番よいのだということです。その環境を持てるような動機付けをしていただける先生がいるかどうかということになってくると思います。 つまり、このA Iドリルをどの様にうまく使うかということをしつかりと指導できる先生方を育成することが重要だと思っております。 同じように、数学についてどこを勉強していいかわからない子供にどう動機付けるか、それが重要かと思いました。
議長 (原田町長)	キュビナは、おそらく埼玉県で導入しているところは少ないと思うのですが、近隣では入っていないですね。 何か把握しているものはありますか。
事務局 (教育委員会事務局 熊谷指導主事)	はっきりと把握をしているわけではないですが、予算上の観点から導入に踏み切れない自治体が多いと認識しています。
櫻井委員	美里町に学童はいくつあるのですか。各学童にポケットW i - F iを貸し出せば学童に行っている児童も家庭で学習している児童と同様にA Iドリル等を活用できるのではないのでしょうか。
議長 (原田町長)	学童保育所は3つあります。 夏休み中などに貸し出すことは可能かと思えます。
岡本委員	このA Iドリルを使って学びの動機付けができると思うのですが、新任のまだ慣れていない先生よりもA Iドリルを使った動機付けの方が有効かもしれないということになってこないのでしょうか。
教育長	あくまでもA Iドリルは、学習道具の一つです。授業で使うコンパスとか三角定規などと同じようなもので、道具の一つとして使います。主体は教師です。教師の効果的な指導やスキルなどをフォローするものがA Iドリルになります。やはり教師の言葉がけやフォロー、配慮、眼差しといったものが基本になると思います。A Iドリル導入により、校務の効率化を図り、子供たちと向き合う時間を引き続き、確保したいと考えております。
議長 (原田町長)	役場もD X化を進める上で、できるだけ住民と向き合う時間や新たな政策を作る時間を確保するためのD X化と考えています。 ですから教育の世界でも、できるだけ機械に置き換えられるものは置き換えて、直接児童生徒と向き合う時間を確保するための整備だという考え方になるかと思えます。 今後、集計作業や通知表の作成などは転記、入力という作業をし

	なくて済むような仕組みができてくると思います。おそらく、これから紙の用紙もPDF化してデータとして読み込んで自動で採点するような機械が出てくると思われます。AIや電子機器のそのような使い方が主になってくると思っています。 先生方には、直接児童・生徒と、向き合う時間を作っていただけるのが一番ありがたいと思います。 他にございましたらお願いします。
深町委員	小・中学生が使っているタブレットは消耗品で、いずれまた新しくなるかと思うのですが、いつ頃を考えていますか。
事務局 (教育委員会事務局 新井係長)	現在使用しているものが再来年の2月までとなっております、再来年の3月に新しいものに入れ替え予定となっております。
議長 (原田町長)	県の教育局で共同調達に向けて尽力していただいております、機種が決まりましたら、町で児童・生徒分、それから壊れても対応可能なように買い取りにするかリースにするかなど、まだこれからになりますけど、検討・調整していきます。 他に何かございませんか。
議長 (原田町長)	最後に私から、給食は今無償化になりまして、昨年の9月から保育園・幼稚園の主食・副食費も無償化をしました。 また、小中学校の教材費に対し、5千円の補助をしておりますが、他の自治体の中には、1万円、2万円の補助を行っているところもあるのですが、今後検討していきたいと思います。 保育料は、3歳未満が今2人目半額補助、3人目は全額補助となっております。深谷市が、3歳未満の保育料の無償化をしましたが、金額的には給食費の無償化の方が補助額は高くなります。 小中学校の給食の無償化と、保育園の主食・副食費の無償化だけで結構な金額になり、通常の市町村だとなかなか踏み切れませんが、一度やってしまえばこれはずっと継続するしかありません。あとは我々が持続する財源をどうやって捻出し確保するかということになります。 また、今年度から、奨学金の返還支援制度が始まります。 我が町に住所があり、35歳までの間で10年間という限度がありますが1年間に3分の2の最大16万円まで、一番多い子ですと160万円まで奨学金の返還支援を受けられるかたちになります。 あとは新幹線通学支援制度で、首都圏等に通学する学生の新幹線

	定期代を2分の1、月額2万円まで町が負担し、美里町から首都圏の大学・短大・専門学校に行くのに活用できますし、アパートを借りるよりも新幹線で通学をした方が安いので、この影響が今後どのように出てくるかです。 消滅可能性市町村は既に脱却をしています。母子手帳の申請件数も少しずつ増えてきているようなので、あとは住宅地の供給を集落内で空いている土地をうまく活用するような仕組みを今年度考えたいと思っています。 児童・生徒数が減らないようにということを目指して進めていきたいと考えていますので、教育委員さんからもこういう仕組みがあった方がいいのではというのがありましたら、ご提言いただければありがたいと思います。 本日はご協力いただきありがとうございました。 それでは、進行を事務局にお返しします。
事務局 (総合政策課長)	皆様には、慎重審議ありがとうございました。 次に、次第の4「その他」でございます。事務局からの議題等は用意しておりませんが、皆様から他に何かございますでしょうか。
事務局 (総合政策課長)	他にないようですので、以上をもちまして、総合教育会議を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

上記のとおり相違ないことを認めます

議事録署名人

町 長 _____

委 員 _____

委 員 _____